

2. 畑作物

(1) 麦類

薬剤名	使用方法	使用時期	使用回数	備考
アクチノールB乳剤	雑草茎葉散布又は全面散布	穂ばらみ期まで(雑草生育初期)	2回以内(アイキシニル2回以内)	
エコパートフロアブル	雑草茎葉散布又は全面散布	小麦節間伸長開始期まで(広葉雑草2~4葉期、ヤムガラ2~6節期)(但し、収穫45日前まで)	2回以内(ピラフルフェニチル2回以内)	小麦(秋播)
	雑草茎葉散布又は全面散布	大麦節間伸長開始期まで(広葉雑草2~4葉期)(但し、収穫45日前まで)	2回以内(ピラフルフェニチル2回以内)	大麦
ガレース乳剤	全面土壌散布	は種後出芽前(雑草発生前)	1回(ジフルフェニカン1回、トリフルリン2回以内)	小麦
			1回(ジフルフェニカン1回、トリフルリン2回以内)	大麦(秋播栽培)
ガレースG	全面土壌散布	は種後発芽前(雑草発生前)	1回(ジフルフェニカン1回、トリフルリン2回以内)	小麦(秋播栽培)
			1回(ジフルフェニカン1回、トリフルリン2回以内)	大麦(秋播栽培)
キックボクサー細粒剤F	全面土壌散布	は種後出芽前(雑草発生前)	1回(プロスルホルフ [®] 2回以内、リニユロン1回)	小麦(秋播)
			1回(プロスルホルフ [®] 2回以内、リニユロン1回)	大麦(秋播)
サターンバアロ乳剤	全面土壌散布	は種直後~麦出芽前	1回(プロメリン2回以内、ベンチオカーブ [®] 1回)	
粒状石灰窒素55	散布	は種前	1回	
トレファノサイド粒剤2.5	雑草茎葉散布又は全面土壌散布	は種後出芽前~3葉期(雑草発生前~雑草発生始期)	2回以内(トリフルリン2回以内)	
トレファノサイド乳剤	雑草茎葉散布又は全面土壌散布	は種後出芽前~3葉期(雑草発生前~雑草発生始期)	2回以内(トリフルリン2回以内) 2回以内(トリフルリン2回以内)	小麦 麦類(小麦を除く)
	全面土壌散布	生育期(雑草発生前)但し、収穫45日前まで	2回以内(トリフルリン2回以内)	小麦 麦類(小麦を除く)
ハーモニー75DF	雑草茎葉散布又は全面散布	<一年生広葉雑草>節間伸長開始期~穂ばらみ期(但し収穫45日前)	1回(チフェンスルフロンメチル1回)	小麦
		<スズメノテッポウ>は種後~節間伸長前	1回(チフェンスルフロンメチル1回)	大麦
バサグラン液剤(ナトリウム塩)	雑草茎葉散布又は全面散布	生育期(但し、収穫90日前まで)	1回(ベンタゾン1回)	麦類(小麦を除く)
	雑草茎葉散布又は全面散布	生育期(但し、収穫45日前まで)	1回(ベンタゾン1回)	小麦
ボクサー	雑草茎葉散布又は全面土壌散布	秋播栽培のは種後~麦2葉期(雑草発生前~雑草発生始期)	2回以内(プロスルホルフ [®] 2回以内)	大麦

薬剤名	使用方法	使用時期	使用回数	備考
	雑草茎葉散布又は全面土壌散布	秋播栽培のは種後～麦2葉期(雑草発生前～雑草発生始期)	2回以内(プロスルホカルブ2回以内)	小麦
リベレーターG	全面土壌散布	は種後～麦2葉期(雑草発生前～イネ科雑草1葉期まで)	1回(ジフルフェニカン1回、フルフェナセット1回) 1回(ジフルフェニカン1回、フルフェナセット1回)	小麦(秋播栽培) 大麦(秋播栽培)
リベレーターフロアブル	雑草茎葉散布又は全面土壌散布	は種後～麦3葉期(雑草発生前～イネ科雑草1葉期まで)	1回(ジフルフェニカン1回、フルフェナセット1回) 1回(ジフルフェニカン1回、フルフェナセット1回)	小麦 大麦(秋播栽培)
ロロック	全面土壌散布	は種後～発芽前(雑草発生前～発生始期)	1回(リニユロン1回)	麦類(秋播)

注1)使用回数の欄の記載は、当該剤及びそれぞれの有効成分を含む農薬の総使用回数の制限を示す。

注2)農薬登録上の作物名が標記の作物名と異なる場合、備考欄に記載した。

・参考農薬

薬剤名	使用方法	使用時期	使用回数	備考
ラウンドアップマックスロード	雑草茎葉散布	耕起前又はは種前まで(雑草生育期)	3回以内(グリホサート3回以内)	

(2) とうもろこし(スイートコーン)

薬剤名	使用方法	使用時期	使用回数	備考
エコトップ乳剤	全面土壌散布	は種後出芽前(雑草発生前)	1回(ジメナミト [®] 及びジメナミト P1 1回、リニユロン1回)	
クリアターン乳剤	全面土壌散布	は種直後(雑草発生前)	1回(ベンチカーブ [®] 1回、ペンテメタリン1回、リニユロン1回)	
ゲザノンゴールド	全面土壌散布	は種後発芽前(雑草発生前) 生育期(とうもろこし2～4葉期)	1回(アトラジン1回、メトラクロール及びS-メトラクロール1回)	
ゲザプリムフロアブル	全面土壌散布及び雑草茎葉散布	は種後～とうもろこし2～4葉期まで	1回(アトラジン1回)	
ゴーゴーサン細粒剤F	全面土壌散布	は種後出芽前(雑草発生前)	1回(ペンテメタリン1回)	
ゴーゴーサン乳剤30	全面土壌散布	は種後出芽前(雑草発生前)	1回(ペンテメタリン1回)	
ブリグロックスL	雑草茎葉散布	畦間処理:雑草生育期(草丈30cm以下)(但し、収穫45日前まで)	5回以内(ジクット5回以内、バレット5回以内)	とうもろこし(子実) 未成熟とうもろこし
	雑草茎葉散布	畦間処理:雑草生育期(草丈30cm以下)(但し、収穫3日前まで)		
ラッソー乳剤	全面土壌散布	は種後出芽前	1回(アトラクロール1回)	
ロロック	全面土壌散布	は種直後	1回(リニユロン1回)	

注1)使用回数の欄の記載は、当該剤及びそれぞれの有効成分を含む農薬の総使用回数の制限を示す。

注2)農薬登録上の作物名が標記の作物名と異なる場合、備考欄に記載した。

(3) だいず

薬剤名	使用方法	使用時期	使用回数	備考
アタックショット乳剤	雑草茎葉散布又は全面散布	本葉 2 葉期～開花前 (雑草生育期) (但し、収穫 45 日前まで)	1 回 (フルアセットメチル 1 回)	
エコトップ P 乳剤	全面土壌散布	は種後出芽前 (雑草発生前)	1 回 (ジメナミト [®] 及びジメナミト [®] P1 回、リニロン 2 回以内 (但し、全面土壌散布は 1 回以内、雑草茎葉兼土壌散布は 1 回以内))	
エコトップ粒剤	全面土壌散布	は種後出芽前 (雑草発生前)	1 回 (ジメナミト [®] 及びジメナミト [®] P1 回、リニロン 2 回以内 (但し、全面土壌散布は 1 回以内、雑草茎葉兼土壌散布は 1 回以内))	
クリアターン細粒剤 F	全面土壌散布	は種直後 (雑草発生前)	1 回 (ベンチカーブ [®] 1 回、ペンテメタリン 1 回、リニロン 2 回以内 (但し、全面土壌散布は 1 回以内、雑草茎葉兼土壌散布は 1 回以内))	
クリアターン乳剤	全面土壌散布	は種直後 (雑草発生前)	1 回 (ベンチカーブ [®] 1 回、ペンテメタリン 1 回、リニロン 2 回以内 (但し、全面土壌散布は 1 回以内、雑草茎葉兼土壌散布は 1 回以内))	
サターンバアロ乳剤	全面土壌散布	は種後出芽前	1 回 (プロモトリン 1 回、ベンチカーブ [®] 1 回)	
セレクト乳剤	雑草茎葉散布又は全面散布	雑草生育期 (イネ科雑草 3～5 葉期) (但し、収穫 50 日前まで)	1 回 (ケルジム 1 回)	
トレファノサイド乳剤	全面土壌散布	は種後出芽前	1 回 (トリフルリン 2 回以内 (但し、全面土壌混和及び全面土壌散布は合計 1 回以内、畦間土壌散布は 1 回以内))	
	全面土壌混和	は種前		
ナブ乳剤	雑草茎葉散布又は全面散布	雑草生育期 (イネ科雑草 3～5 葉期) (但し、収穫 30 日前まで)	1 回 (セキジム 1 回)	
バスタ液剤	雑草茎葉散布	は種前 (雑草生育期)	3 回以内 (ケルシネット 3 回以内)	
		収穫 28 日前まで (畦間処理: 雑草生育期) (株間処理: 本葉 5 葉期以降、雑草生育期)		

薬剤名	使用方法	使用時期	使用回数	備考
フルミオWDG	全面土壌散布	は種後出芽前(雑草発生前)	1回(フルミオキサジン1回)	
プロールプラス乳剤	全面土壌散布	は種後出芽前(雑草発生前)	1回(ジメナミドおよびジメナミド P1回、ペンデイメタリン1回、リニユロン2回(全面土壌散布は1回以内、雑草茎葉兼土壌散布は1回以内))	
ポルトフロアブル	雑草茎葉散布又は全面散布	雑草生育期(イネ科雑草3~10葉期(但し、収穫30日前まで))	1回(キサロホップエチル1回)	
ラクサー粒剤	全面土壌散布	は種後出芽前(雑草発生前)	1回(アラクロール1回、リニユロン2回以内(全面土壌散布は1回以内、雑草茎葉兼土壌散布は1回以内))	
ラクサー乳剤	全面土壌散布	は種後出芽前(雑草発生前)	1回(アラクロール1回、リニユロン2回以内(全面土壌散布は1回以内、雑草茎葉兼土壌散布は1回以内))	
ロロックス	全面土壌散布	は種直後~出芽前(雑草発生前~発生始期)	1回(リニユロン2回以内(但し、全面土壌散布は1回以内、雑草茎葉兼土壌散布は1回以内))	
ワンサイドP乳剤	雑草茎葉散布又は全面散布	雑草生育期(イネ科雑草3~5葉期)(但し、収穫60日前まで)	1回(フルアジホップ P1回)	
大豆バサグラン液剤(ナトリウム塩)	雑草茎葉散布又は全面散布	だいたいの2葉期~開花前(雑草の生育初期~6葉期)(但し、収穫45日前まで)	1回(ペンタゴン2回以内(但し、畦間処理は1回以内))	

注1)使用回数の欄の記載は、当該剤及びそれぞれの有効成分を含む農薬の総使用回数の制限を示す。

・参考農薬

薬剤名	使用方法	使用時期	使用回数	備考
ラウンドアップマックスロード	雑草茎葉散布	耕起前又は出芽前まで(雑草生育期)	2回以内(グリホサート4回以内)	

(4) そば

薬剤名	使用方法	使用時期	使用回数	備考
ナブ乳剤	雑草茎葉散布又は全面散布	雑草生育期(イネ科雑草3~5葉期)(但し、収穫30日前まで)	1回(セトキシジム1回)	

・参考農薬

薬剤名	使用方法	使用時期	使用回数	備考
ラウンドアップマックスロード	雑草茎葉散布	耕起前又はは種前まで（雑草生育期）	2回以内（グリホサート2回以内）	

注1)使用回数の欄の記載は、当該剤及びそれぞれの有効成分を含む農薬の総使用回数の制限を示す。

(5) なたね

薬剤名	使用方法	使用時期	使用回数	備考
トレファノサイド乳剤	全面土壌散布	は種直後	1回（トリフルリン1回）	

注1)使用回数の欄の記載は、当該剤及びそれぞれの有効成分を含む農薬の総使用回数の制限を示す。

(6) 陸稲

・参考農薬

薬剤名	使用方法	使用時期	使用回数	備考
ゴーゴーサン乳剤30	全面土壌散布	は種後出芽前（雑草発生前）	1回（ペンデメタリン1回）	

注1)使用回数の欄の記載は、当該剤及びそれぞれの有効成分を含む農薬の総使用回数の制限を示す。

ア 畑作物雑草防除体系

麦類	全耕転栽培 ア 雑草が少ない場合		
	普通播	{	ガレースG 4~5kg
	ドリル播		ガレース乳剤 200~250ml
	全層播等		ボクサー 400~500ml
	は種後		キックボクサー細粒剤F 3~4kg
			リベレーターG 4~5kg
			リベレーターフロアブル 60~80ml
			トレファノサイド乳剤 200~300ml
			トレファノサイド粒剤2.5 4~5kg
			ロロックス 150~200g
	サターンバアロ乳剤 600~750ml		
イ アブラナ科帰化雑草（ヒメアマナズナ、クジラグサ、グンバイナズナ、ツノミナズナ）			
は種後	ガレースG 4~5kg	ヒメアマナズナ、クジラグサ、グンバイナズナ	
	ガレース乳剤 200~250ml	+ 越冬後~麦茎立期（2下~3上）	
		ハーモニー75DF 5~10g	
		ツノミナズナ	
		+ 越冬後（2下）	
		エコパートフロアブル 50~100ml	
ウ ヤグルマギク（キク科帰化雑草）			
麦類は種1ヶ月後~越冬前（12中下）	アクチノールB乳剤 200ml		
残草がある場合	+ 越冬前~越冬後（12下~2中）	バサグラン液剤 200ml	
エ ノハラジャク（セリ科帰化雑草）			
越冬後（2月）	ハーモニー75DF 10g		
オ 他の雑草が多い場合			
は種後	同上	+ 越冬後~麦茎立期（2下~3中）	アクチノールB乳剤 150~200ml
			エコパートフロアブル 50~100ml
			ハーモニー75DF 5~10g

とうもろこし (スイートコーン・ 子実用とうもろこし・ 加工用とうもろこし)	は種後	ロロックス 150g ラッソー乳剤300ml クリアターン乳剤 600~800ml エコトップ乳剤 500~600ml	生育期 (注) ゲザプリムフロアブル 100~200ml + ゲザノンゴールド 140~260ml 中耕培土	1. 残存雑草または再発生雑草が多い場合は、生育期処理剤として、ゲザプリムフロアブルまたはゲザノンゴールドが使用できる。ただし、これら両剤を土壌処理剤として使用した場合は、中耕培土を行う。
	は種後 出芽前	ゴーゴーサン乳剤 200~300ml ゴーゴーサン細粒剤F 5~6kg	+ 同上	2. 飼料用とうもろこしは「7. 飼料作物・牧草参照。
	は種後	ゲザプリムフロアブル 100~200ml ラッソー乳剤300ml	+ 中耕培土	
	雑草生育期	プリグロックスL 600~1000ml (畦間処理)		

	【全面土壌散布】	【雑草茎葉散布】
だい ず	<p>【イネ科雑草が多い場合】</p> <ul style="list-style-type: none"> * エコトップP乳剤 400～600ml * エコトップ粒剤 4～6kg ラクサー乳剤 400～600ml ラクサー粒剤 4～6kg フルミオWDG 10g クリアターン乳剤 500～800ml クリアターン細粒剤F 4～5kg ロックス 100～200g * サターンバアロ乳剤 600～800ml トレファノサイド乳剤 200～300ml プロールプラス乳剤 500～600ml 	<p>生育期（イネ科雑草3～10葉期）</p> <ul style="list-style-type: none"> ボルトフロアブル 200～300ml <p>+</p> <p>生育期（イネ科雑草3～5葉期）</p> <ul style="list-style-type: none"> ワンサイドP乳剤 75～100ml ナブ乳剤 200ml セレクト乳剤 35～50ml
	<p>【広葉雑草が多い場合】</p> <ul style="list-style-type: none"> * エコトップP乳剤 400～600ml * エコトップ粒剤 4～6kg ラクサー乳剤 400～600ml ラクサー粒剤 4～6kg フルミオWDG 10g ロックス 100～200g クリアターン乳剤 500～800ml クリアターン細粒剤F 4～5kg 	<p>生育初期～6葉期</p> <ul style="list-style-type: none"> *大豆バサグラン液剤 100～150ml <p>+</p> <p>【マルバルコウ（帰化アサガオ類）がある場合】</p> <p>4葉期まで</p> <ul style="list-style-type: none"> *大豆バサグラン液剤 150ml *アタックショット乳剤 50ml <p>つる伸長始期まで</p> <ul style="list-style-type: none"> バスタ液剤 500ml
	<p>【帰化アサガオ類が多い場合】</p> <p>は種前</p> <ul style="list-style-type: none"> トレファノサイド乳剤 300ml <p>散布直後に耕起すること。</p>	<p>以降、上記の【マルバルコウ(帰化アサガオ類)がある場合】と同じとするが、カヤツリグサ科、キク科が多い場合は、効果の高い他の土壌処理型除草剤を、は種後～出芽前に散布すること。</p>

(注) *印はえだまめには使用できない。

栽培様式および雑草発生量により中耕培土と組み合わせる

※「は種後」については薬剤によって「は種直後」「は種後出芽前」など使用時期が異なる。

農薬登録に記載の使用時期を守ること。

麦類	[参考農薬] 耕起又はは種前まで（雑草生育期） ラウンドアップマックスロード200～500ml
大豆	[参考農薬] 耕起又はは種前まで（雑草生育期） ラウンドアップマックスロード200～500ml
そば	生育期（イネ科雑草3～5葉期） ナブ乳剤150～200ml [参考農薬] 耕起又はは種前まで（雑草生育期） ラウンドアップマックスロード200～500ml
なたね	は種直後 トレファノサイド乳剤200～300ml+中耕培土
陸稲	[参考農薬] は種後出芽前 ゴーゴーサン乳剤 200～400ml

イ 作物別除草剤の使用法

【麦類】

作物名	防除時期および処理法	対象雑草	除草剤名	成分%	10a当たり薬剤量	使用法	注意事項
麦類	は種後発芽前 全面土壌散布	畑地一年生雑草	ガレースG	ジフルフェニカン 0.15% トリフルリン 2%	4～5kg	砂土を除く	<ol style="list-style-type: none"> 1. アブラナ科帰化雑草（ヒメアマナズナ、クジラグサ、グンバイナズナ、ツノミナズナ）に対しては、ガレースGおよび乳剤の効果が高い。ツノミナズナ以外にはハーモニーDF75、ツノミナズナにはエコパートフロアブルとの体系処理を行う。 2. キックボクサー細粒剤Fは土壌水分が高い場合、低温により麦類生育が遅延する場合には軽微な被害が発生することもあるが、その後の生育、収量に大きな影響はない。 3. リベレーターGは、ネズミムギに対する密度抑制効果がある。 4. ボクサーは小麦2葉期処理で軽微な被害（葉の白化）が生じることがあるが、その後の生育、収量に影響はない。 5. リベレーターG、リベレーターフロアブルは、初期に軽微な被害（葉の黄白斑）が発生することもあるが、その後の生育、収量に影響はない。 6. 南信地方、沖積、砂壤土または雨の多い年には各除草剤の使用量の少ない量を、火山灰土の場合は多い量を使用する。 7. 粒剤を使用する場合は土壌を極力細かく砕き、無風の時に均一に散布する。土壌の過湿のときは使用しない。 8. トレファノサイド乳剤及び粒剤は既に発生した雑草には効果がない。 9. トレファノサイド乳剤及び粒剤は広葉雑草に対して効果が劣るので、主としてイネ科雑草の優占圃場で使用する。 10. ロロックスはイネ科雑草に対する効果がやや劣るので、主として広葉雑草の優占圃場で使用する。 11. サターンバアロ乳剤を使用する時は雑草の発生前に使用する。 12. サターンバアロ乳剤は覆土が不完全な場合は被害が発生することがある。 13. *印を付けた、トレファノサイド粒剤2.5、トレファノサイド乳剤、サターンバアロ乳剤以外の剤は、小麦、大麦以外の麦類（えんばくやライ麦など）には使用できない。詳しくは適用一覧を参照する。
	は種後発芽前 全面土壌散布	一年生雑草	ガレース乳剤	ジフルフェニカン 3.7% トリフルリン 37%	200～250mℓ	希釈水量100ℓ 砂土を除く	
			キックボクサー細粒剤F	プロスホカク 7.0% リニエロン 1.75%	3～4kg	砂土を除く	
	は種後～麦2葉期まで（雑草発生前～雑草発生初期） 全面土壌散布	一年生雑草	ボクサー	プロスホカク 78.4%	400～500mℓ	希釈水量70～100ℓ	
	は種後～麦2葉期（雑草発生前～イネ科雑草1葉期まで） 全面土壌散布	一年生雑草	リベレーターG	ジフルフェニカン 0.20% フルフェナセット 0.60%	4～5kg	砂土を除く	
	は種後～麦3葉期まで（雑草発生前～イネ科雑草1葉期まで） 雑草茎葉散布または全面土壌散布	一年生雑草	リベレーターフロアブル	ジフルフェニカン 8.4% フルフェナセット 33.6%	60～80mℓ	希釈水量100L	
	は種後発芽前 全面土壌散布	一年生雑草（ツユクサ科、カヤツリグサ科、キク科、アブラナ科を除く）	* トレファノサイド粒剤2.5	トリフルリン 2.5%	4～5kg	砂壤土～埴土	
			* トレファノサイド乳剤	トリフルリン 44.5%	200～300mℓ	希釈水量100ℓ	
		一年生雑草	ロロックス	リニエロン 50%	150～200g		
			* サターンバアロ乳剤	ベンチカブ 50% デロトリン 5%	600～750mℓ	希釈水量100ℓ	
	麦穂ばらみ期まで（雑草生育初期） 雑草茎葉散布	畑地一年生広葉雑草	* アクチノールB乳剤	アイキシニル 30%	100～200mℓ	希釈水量70～100ℓ	
	広葉雑草2～4葉期・小麦、大麦節間伸長開始期まで（但し、収穫45日前まで） 雑草茎葉散布	一年生広葉雑草	エコパートフロアブル	ピラフルフェニル2%	50～100mℓ	希釈水量100ℓ	
	は種後～節間伸長前 雑草茎葉散布又は全面散布	一年生広葉雑草 スズメノテッポウ	ハーモニー75DF	チフェンメフロンメチル 75%	5～10g	希釈水量100ℓ	
麦類の生育期（雑草の3～6葉期）（但し、大麦は収穫90日前まで、小麦は収穫45日前まで） 雑草茎葉散布	一年生広葉雑草（イネ科を除く）	* バサグラン液剤（ナトリウム塩）	ベンタザンナトリウム塩40.0%	100～200mℓ	希釈水量70～100ℓ		
耕起前またはは種前まで（雑草生育期） 雑草茎葉散布	一年生雑草	[参考農薬] ラウンドアップマックスロード	グリホサートカリウム塩 48%	200～500mℓ	少量散布 5～25ℓ		
	一年生雑草及び多年生イネ科雑草				通常散布 50～100ℓ 少量散布 25～50ℓ		
は種前	一年生雑草	石灰窒素	石灰窒素55.0%	50kg			

【とうもろこし】

作物名	防除時期および処理法	対象雑草	除草剤名	成分%	10a当たり薬剤量	使用法	注意事項
とうもろこし (スイートコーン・子実用とうもろこし・加工用とうもろこし)	は種後(雑草発生前) 全面土壌散布	一年生雑草	クリアターン乳剤	ベンチカブ [®] 50% ベンテ [®] イメタリン 5% リニuron 7.5%	600~800mℓ	希釈水量100ℓ 全土壌(但し、砂土を除く)	1. 砂質土では使用しない。 2. ゴーゴーサン乳剤30、ゴーゴーサン細粒剤Fは、キク科雑草及びツクサに効果が劣るので、これら雑草の優占圃場では使用しない。 3. ゴーゴーサン細粒剤Fのスイートコーンについては、長野県では試験をしていない。
	は種後出芽前(雑草発生前) 全面土壌散布	一年生雑草	ゴーゴーサン乳剤	ベンテ [®] イメタリン 30%	200~300mℓ	希釈水量100ℓ	
			ゴーゴーサン細粒剤F	ベンテ [®] イメタリン2%	5~6kg	砂壤土~埴土で使用	
	は種後 全面土壌散布		ロックス	リニuron 50%	150g	希釈水量100ℓ	
	播種後~出芽前 全面土壌散布	一年生雑草	ラッソー乳剤	アラクロール 43%	300mℓ	希釈水量100ℓ	
	は種後出芽前(雑草発生前) 全面土壌散布		エコトップ乳剤	ジメナミト [®] 14% リニuron 12%	500~600mℓ	希釈水量100ℓ 砂土を除く	
	生育期(とうもろこし2~4葉期) 全面土壌散布	一年生雑草	ゲザノンゴールド	アトラシン 27.8% S-メトラクロール 26.4%	140~260mℓ	希釈水量70~100ℓ	1. 土壌処理剤として、ゲザプリムフロアブルまたはゲザノンゴールドを使用した場合は、使用回数の制限から、これら両剤の生育期処理はできない。 2. イネ科雑草に対しては、葉齢が進むと効果が劣るので時期を失しないように散布する。 3. ゲザノンゴールドの生育期処理はスイートコーンについては、長野県では試験をしていない。 4. 展着剤は加用しない。
	は種後~とうもろこし2~4葉期まで 全面土壌散布及び雑草茎葉散布		ゲザプリムフロアブル	アトラシン 45%	100~200mℓ	希釈水量70~100ℓ 砂土を除く全土壌	
とうもろこし生育期 畦間雑草茎葉散布	一年生雑草	ブリグロックスL	ジ [®] クワッドジ [®] プロミト [®] 7% パ [®] ラコートジ [®] クワリト [®] 5%	600~1000mℓ	希釈水量100~150ℓ	1. 作物にかからないよう噴口に飛散防止カバーをつける。	

【だいず】

作物名	防除時期および処理法	対象雑草	除草剤名	成分%	10a当たり薬剤量	使用法	注意事項
だいず	は種後出芽前（雑草発生前）全面土壌散布	一年生雑草	* エコトップP乳剤	ジメナミトP 8.5% リニロン 12%	400～600ml	希釈水量1000 砂土を除く	<ol style="list-style-type: none"> フルミオWDGは、マルバルコウに対する発生密度低下効果があり、有効な生育期茎葉処理除草剤との体系防除を行う。マメアサガオに対してはマルバルコウに比べ防除効果が低い。イネ科雑草には効果が低いため、イネ科雑草に有効な除草剤を使用する。 フルミオWDGは微量で活性が高いため、散布時の噴霧器の圧力を適正に調整するとともに、風速に注意し、飛散を防止する。作業後は「フルミオWDG洗浄剤による洗浄方法」（メーカー提供）に従い、機械類の洗浄を徹底し、廃液を適切に処理する。 *印を付けた、サターンバアロ乳剤、エコトップP乳剤、エコトップ粒剤は、えだまめには使用できない。 乾燥条件では効果が劣るので、ブロールプラス乳剤、クリアターン乳剤、ロロックス、サターンバアロ乳剤は希釈水量を多くする。また、特に粒剤では耕起およびは種後速やかに、または、土壌水分が高い時間帯等に散布する。 クリアターン細粒剤F、エコトップ粒剤、ラクサー乳剤は粒径および比重が異なるため、散布器具の調整に注意する。 サターンバアロ乳剤は、広葉雑草の多い場合は薬量の多い方を適用する。 トレファノサイド乳剤はイネ科一年生雑草の優占する圃場で使用するのが効果的である。 トレファノサイド乳剤をは種前に土壌混和する場合は、散布直後に耕起を行うこと。
			* エコトップ粒剤	ジメナミト 1.6% リニロン 1.4%	4～6kg	砂土を除く全土壌	
			ラクサー乳剤	アラクロール 30.0% リニロン 12.0%	400～600ml	希釈水量1000 全土壌（但し、砂土を除く）	
			ラクサー粒剤	アラクロール 4.0% リニロン 1.04%	4～6kg	砂土を除く全土壌	
			ブロールプラス乳剤	ジメナミトP 6.7% ベンテイメタリン 6.5% リニロン 11.4%	500～600ml	希釈水量70～1500 全土壌（但し、砂土を除く）	
	一年生広葉雑草	フルミオWDG	フルミオキシゲン50.0%	10g	希釈水量1000		
	は種直後（雑草発生前）全面土壌散布	一年生雑草	クリアターン乳剤	ベンチオカーブ 50% ベンテイメタリン 5% リニロン 7.5%	500～800ml	希釈水量70～1000 全土壌（但し、砂土を除く）	
			クリアターン細粒剤F	ベンチオカーブ 8% ベンテイメタリン 0.8% リニロン 1.2%	4～5kg	全土壌（但し、砂土を除く）	
	は種直後～出芽前（雑草発生前～発生始期）全面土壌散布	一年生雑草	ロロックス	リニロン 50%	100～200g	希釈水量70～1500	
	は種後出芽前全面土壌散布	一年生雑草	* サターンバアロ乳剤	プロモリン 5% ベンチオカーブ 50%	600～800ml	希釈水量70～1000	
	は種前	一年生雑草（ツユクサ科、カヤツリグサ科、キク科、アブラナ科を除く）	トレファノサイド乳剤	トリフルリン 44.5%	300ml	希釈水量1000	
	は種後出芽前全面土壌散布				200～300ml		
雑草生育期（イネ科雑草3～10葉期）（但し、収穫30日前まで）雑草茎葉散布	一年生イネ科雑草（スズメノカタビラを除く）	ポルトフロアブル	キチロホップエチル 7.0%	200～300ml	希釈水量1000	<ol style="list-style-type: none"> 発芽または移植後イネ科雑草の多い場合に散布する。広葉雑草には効果がない。 イネ科作物にかからないようにする。 処理後に中耕培土しても効果に変わらない。 ポルトフロアブルはイネ科雑草の葉齢および出穂の有無により薬量を決める。8葉期までで出穂がない場合は200ml、8葉期で出穂個体がある場合は200～300ml、9～10葉期で出穂個体がある場合には300mlとする。イネ科雑草の葉身および葉鞘の退色、枯死始めまでに1週間程度を要する。 効果は遅効性で枯死までにナブ乳剤で7～10日、ワンサイドP乳剤で2～3週間かかる。 	
雑草生育期（イネ科雑草3～5葉期）（但し、収穫30日前まで）雑草茎葉散布又は全面散布	一年生イネ科雑草（スズメノカタビラを除く）	ナブ乳剤	セトキシジA 20%	200ml	通常散布50～1500、少量散布25～500		

作物名	防除時期および処理法	対象雑草	除草剤名	成分%	10a当たり薬剤量	使用法	注意事項
だいず	雑草生育期（イネ科雑草3～5葉期）（但し、収穫60日前まで） 雑草茎葉散布	一年生イネ科雑草（スズメノカタビラを除く）	ワンサイドP乳剤	フルアジホップP 17.5%	75～100ml	希釈水量25～100ℓ	
	雑草生育期 イネ科雑草3～5葉期（但し、収穫50日前まで） 雑草茎葉散布	一年生イネ科雑草（スズメノカタビラを除く）	セレクト乳剤	クレジマ 24%	35～50ml	希釈水量100ℓ	
	大豆の2葉期～開花前（雑草の生育初期～6葉期）（但し、収穫45日前まで） 雑草茎葉散布	一年生雑草（イネ科を除く）	*大豆バサグラン液剤（ナトリウム塩）	ベンタガンナトリウム塩 40%	100～150ml	希釈水量100ℓ	<ol style="list-style-type: none"> （*印） えだまめには使用できない。 は種後の土壌処理型除草剤との体系で処理する。 帰化アサガオ類のうちマルバルコウには、大豆は種2週間後以降のマルバルコウ4葉期までに薬剤量は150mlとして処理する。マメアサガオには効果が不安定である。両草種とも再生、後発があった場合には、バスタ液剤との体系処理を行う。 ヒユ、シロザには効果が不安定である。アメリカセンダングサには4葉期までに処理する。 イネ科雑草には効果がないので、イネ科雑草が混在する場合は、これらに有効な除草剤との体系で使用する。 散布後、曇天、降雨が続くと効果が劣るので、散布後の天候に留意して散布すること。 大豆の品種や処理時の条件によっては、散布時に展開していた葉に黄化、褐変、萎縮などの一過性の薬害症状が発生する場合がある。 県内の奨励普及品種の中で「あやこがね」は薬害が発生しやすいので処理時の条件に留意し、処理後の高温が予想される場合は使用しない。 著しい高温が続く場合、日照が強く蒸散が盛んな場合、大豆が生育不良の場合薬害を助長することがあるので使用を避ける。
	本葉2～4葉期（雑草生育期）（但し、収穫45日前まで） 雑草茎葉散布又は全面散布	一年生広葉雑草	*アタックショット乳剤	フルチアセットチル2.0%	30～50ml	希釈水量100ℓ	<ol style="list-style-type: none"> （*印） えだまめには使用できない。 は種後の土壌処理型除草剤との体系で処理する。 薬剤量は、帰化アサガオ類に対しては50ml、その他草種に対しては30～50mlとし、雑草の草丈10cm以下までに使用する。 帰化アサガオ類に対する防除効果は、マルバルコウには安定的だが、処理後の再生状況により体系処理を行う。マメアサガオには不安定であるため体系処理を前提とする。 シロザ、ヒユ類、イチビ等に対する効果は高いが、キク科、カヤツリグサ科、タデ類には効果が劣るためこれらが優先する場合は使用を避ける。 処理時に展葉していた大豆葉には処理翌日から褐斑、褐点を生じるものの、その後の生育、収量には大きく影響しない。ただし、大豆の生育不良等の条件では、生育が抑制される場合もある。 「すずほまれ」、「ギンレイ」、「ナカセンナリ」、「すずろまん」、「あやみどり」への適応が可能である。 薬害を助長するので、イネ科雑草対象剤等の茎葉処理型除草剤の混用、展着剤の加用は行わない。
	雑草生育期 は種前 収穫28日前までの畔間処理・株間処理 雑草茎葉散布	一年生雑草	バスタ液剤	ガルホシネート18.5%	300～500ml	希釈水量100～150ℓ	<ol style="list-style-type: none"> 帰化アサガオ類に対しては、大豆バサグラン液剤との体系処理とし、大豆は種1ヶ月後以降の蔓伸長始期までに、薬剤量は500mlとして畔間および株間散布する。 バスタ液剤は非選択性除草剤である。畔間散布および株間散布で使用する場合、大豆の（特に葉）に薬液が付着すると薬害（褐変、枯死）が生ずるので、飛散防止ノズルやカバーの使用、噴霧圧力の調節を行い、無風条件で散布するなど、飛散防止に努める。 バスタ液剤の畔間散布および株間散布では、雑草が大豆より大きく繁茂した場合、散布作業が困難となり、薬害の危険が増すので、適期散布を徹底する。
耕起前または出芽前まで（雑草生育期）雑草茎葉散布	一年生雑草	[参考農薬] ラウンドアップマックスロード	グリホサートカリウム塩 48%	200～500ml	通常散布 50～100ℓ 少量散布 25～50ℓ		

【そば】

作物名	防除時期および処理法	対象雑草	除草剤名	成分%	10a当たり薬剤量	使用法	注意事項
そば	雑草生育期イネ科雑草3～5葉期（但し、収穫30日前まで） 雑草茎葉散布又は全面散布	一年生イネ科雑草（スズメノカタビラを除く）	ナブ乳剤	セトキシジム 20%	150～200mℓ	通常散布50～150ℓ、少量散布25～50ℓ	1. 隣接ほ場のイネ科作物（イネ、ムギ類、とうもろこし等）にかからないように散布する。 2. 効果は遅効的で、枯死まで7～10日かかる。また広葉雑草には効果がない。
		一年生雑草	[参考農薬] ラウンドアップマックスロード	グリホサートカリウム塩 48%	200～500mℓ	通常散布50～100ℓ 少量散布5～50ℓ	1. 少量散布では専用ノズルを使う。
		多年生雑草				通常散布50～100ℓ 少量散布25～50ℓ	1. 少量散布では専用ノズルを使う。

【なたね】

作物名	防除時期および処理法	対象雑草	除草剤名	成分%	10a当たり薬剤量	使用法	注意事項
なたね	は種直後全面土壌散布	一年生雑草（ツユクサ科、カヤツリグサ科、キク科、アブラナ科を除く）	トレファノサイド乳剤	トリフルリン 44.5%	200～300mℓ	希釈水量100ℓ	1. 既に発生した雑草には効果がないので、発生前に処理する。 2. 揮散を少なくするため、日射の弱い夕刻や曇天時、無風のときに散布する。 3. 広葉雑草の多い畑、腐植含量の多い土、重粘土壌では薬量を多めに、砂土では少なめにする。

【陸稲】

作物名	防除時期および処理法	対象雑草	除草剤名	成分%	10a当たり薬剤量	使用法	注意事項
陸稲	は種後出芽前全面土壌散布	一年生雑草	[参考農薬] ゴーゴーサン乳剤	ベンディメタリン 30.0%	200～400mℓ	希釈水量70～150ℓ	